

海外英語研修実施報告ならびに改善策の考察 (その2)

小山直子*

Report of the English Study Abroad Program and Proposal of Measures for Improvement (No.2)

Naoko Koyama *

Abstract

This paper describes the result of the English Study Abroad Program in March, 2009.

The first report and analysis on the 2008 summer program is already in print in OIU JOURNAL OF INTERNATIONAL STUDIES Vol.22, No.2, and this time, therefore, I attempt to make further analysis on the results of the “pre-questionnaire” and “post-questionnaire” and to propose what we will be able to do for our students who sincerely want to learn English.

キーワード

英語力、コミュニケーション力、Global mind、国際交流、ホームステイ

I. はじめに

2008年8月本学の国際交流センター主催のオーストラリア海外英語研修に初めて引率者として参加し、その報告と改善策の提案を2009年1月発行の国際研究論叢第22巻第2号に研究ノートとして上梓した。今回は2009年春の研修で、前回出来なかった研修前アンケートの実施や懸案となっていた研修最終日に初日と同じテストを実施して4週間の研修の効果を見ることなどが出来たので、それらの結果を踏まえて更なる改善に繋げる。

但し、研修前と研修後のアンケートは母数を増やすためにニュージーランドへの英語研修生に実施した結果も合算して記した。

II. 実施報告

研修の流れは、前回の研究ノート (国際研究論叢第22巻第2号) に述べた内容とほぼ同様であるので詳細は省略する。

*こやま なおこ：大阪国際大学短期大学部教授 (2009.6.9受理)

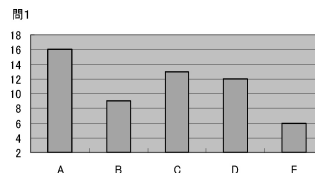
1. 研修先：① QIBA, Coolangatta, Gold Coast, Australia
② CPIT, Christchurch, New Zealand
2. 研修期間：① 2009年2月28日～3月28日
② 2009年2月27日～3月28日
3. 引率期間：① 2009年2月28日～3月8日
② 2009年2月27日～3月9日
4. 引率者：① 小山直子
② Mr. Colin Rogers
5. 参加者：① 5名（女子学生5名）
注：ブリスベン空港までは海外インターンシップ研修参加女子学生1名
同伴
② 16名（女子学生13名、男子学生3名）
注：クライストチャーチまで海外インターンシップ研修参加女子学生2
名同伴

Ⅲ：研修前のアンケートおよび集計結果

<海外研修前アンケート>（18名回答）

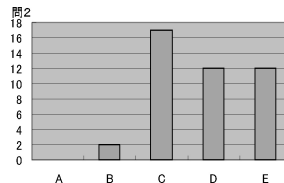
1. この研修に何を期待しますか。（複数回答可）

- A：会話力の向上（16名）
B：英語力全般の向上（9名）
C：コミュニケーション能力の向上（13名）
D：異文化理解を深める（12名）
E：友達を作る（6名）



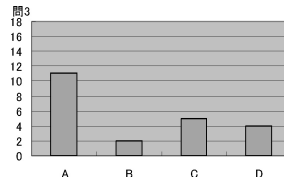
2. 英語力全般においてどのような点の向上を期待しますか。（複数回答可）

- A：文法力（0）
B：語彙力（2名）
C：会話力（17名）
D：リスニング力（12名）
E：コミュニケーション力（12名）



3. 研修に際して不安に思っていることは何ですか。（複数回答可）

- A：英語の授業（11名）
B：ホストファミリーとの生活（2名）
C：文化の違い（5名）
D：友人関係（現地での友人関係も含む）（4名）



4. 研修に当たって何か特に準備をしていますか。

- はい→A：英語（5名）→a：文法（1名）b：語彙（3名）c：リスニング（5名）
B：日本の文化の勉強（1名）

海外英語研修実施報告ならびに改善策の考察（その2）

C：相手の文化の勉強（5名）

D：その他（0名）

いいえ（3名）→どうして何もしないのですか→理由（多忙。試験準備で忙しかった。何となく。）

5. 研修に参加する決意あるいは抱負を述べて下さい。

- ・英語が話せるようになるためにもたくさん話して上達したい。
- ・ホストファミリーの方とコミュニケーションを取って仲良くなりたい。（2名）
- ・現地の英語で英語を高めたい。
- ・英語の能力は低いけれど一生懸命コミュニケーションをとりたい。
- ・文化の違いを感じたい。
- ・英語だけでなく、いろいろな事も学びたい。
- ・1ヶ月という限られた期間だが、少しでも海外を体験して今後の生活につなげたい。
- ・この海外研修において英語力の向上はもちろん異文化の理解を重点的に深めていきたい。
- ・自分が今持つ価値観はやはり日本という国の影響が強いので現地の人とのコミュニケーションからその人の価値観を通してニュージーランドという国を見ていきたい。
- ・会話やリスニング力をつけたい。
- ・積極的に会話ができるようになる。
- ・1ヶ月だけど、会話力、リスニング力をつけたい。
- ・少しでも多く少しでも楽しく日本では学べない英語や文化を身につけようと思います。楽しい1ヶ月にしたい。
- ・日本人として代表がんばるぞ！！
- ・受身の状態でなく積極的に話しかけてじぶんからコミュニケーションをとれるよう努力したい。
- ・行くからには何かを得て日本に帰ってきたい。
- ・向こうの授業についていけるか、ホストファミリーとうまく生活をしていけるか、コミュニケーションをちゃんととてるかなど、色々不安はありますが、自分から積極的に行動できるように心がけ、英語力が少しでも向上するように勉強をがんばり日本ではできない経験を楽しみたい。

Ⅳ：研修後のアンケートおよび集計結果

<英語研修アンケート>13名回答

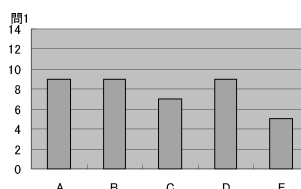
1. この研修に何を期待しましたか。（複数回答可）

A：会話力の向上（9名）

B：英語力全般の向上（9名）

C：コミュニケーション能力の向上（7名）

D：異文化理解を深める（9名）



E：友達を作る（5名）

F：その他（0名）

2. 研修を終えて、抱いていた期待に対する満足度は？（それぞれの問いに対して）

a：すごく満足 b：ほぼ満足 c：やや不満 d：まったく不満

A：(a - 4名) (b - 4名) (c - 4名)

B：(a - 3名) (b - 8名) (c - 2名)

C：(a - 5名) (b - 7名)

D：(a - 6名) (b - 6名)

E：(a - 4名) (b - 6名) (c - 2名)

3. 研修を通して英語力全般で特にどのような点で向上が見られましたか。（複数回答可）

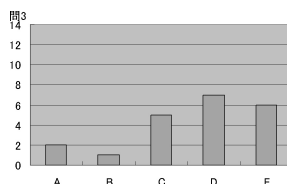
A：文法力（2名）

B：語彙力（1名）

C：会話力（5名）

D：リスニング力（7名）

E：コミュニケーション力（6名）



4. 研修期間中、予習・復習に平均どの位の時間を割きましたか。

平日 a：1時間以内（3名）

b：1～2時間（9名）

c：2～3時間（1名）

d：3時間以上（0名）

週末 a：1時間以内（6名）

b：1～2時間（5名）

c：2～3時間（1名）

d：3時間以上（0名）

5. 授業でどういう点、あるいは何が一番難しかったですか。（複数回答可）

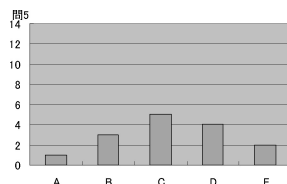
A：聞き取り（1名）

B：語彙（3名）

C：答え方（5名）

D：文法（4名）

E：その他（2名）（友達との会話。質問すること。）



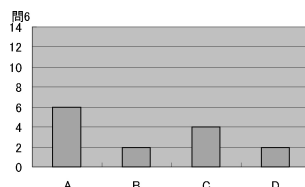
6. 授業以外で難しかったことは何ですか。

A：ホストファミリーとのコミュニケーション（6名）

B：クラスメートとのコミュニケーション（2名）

C：町中でのコミュニケーション（4名）

D：その他（特になし。子供も早口。）（2名）



7. ホストファミリーとの生活で

A：楽しかったこと：

・日常すべて（2名）。

海外英語研修実施報告ならびに改善策の考察（その2）

- ・ 会話。
- ・ パーティ。
- ・ 映画を見たこと。
- ・ 英語が上手になる。
- ・ 一緒に料理を作った。
- ・ ガレージセールに行った。
- ・ 一緒にテレビを見たこと。
- ・ ホストファミリーとビーチに行ったこと。
- ・ いろんな所に連れて行ってくれた（3名）。
- ・ 4人で外食した。
- ・ 他国の人と交流した。

B：学んだこと：

- ・ たくさん。
- ・ 人間単位では国を超えても、その人間性はさほど変わらない。
- ・ 異文化の生活のこと。
- ・ 現地の人の自然なふるまい。
- ・ 会話、発音などいろいろ教えてもらった。
- ・ 日本の文化が素晴らしいということ。
- ・ マナー。
- ・ リスニング力。
- ・ 人間性。
- ・ 家庭内での単語。
- ・ 発音が全然違った。

C：困ったこと：

- ・ 伝えたいことを上手く伝えられなかった（3名）。
- ・ 言いたいことを理解してもらえなかった。
- ・ 最初のファミリーとの会話（2名）。
- ・ シャワーの時間が短い。
- ・ 寝るのが早い。
- ・ 子供の英語が聞き取りにくかった。
- ・ 食事のマナー。
- ・ 相手の気持ちを上手く聞けないので、自分の意思も言えない。
- ・ 話がかみ合わない時があった。

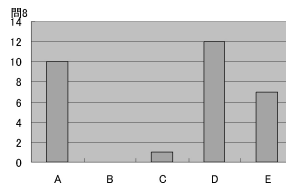
D：嫌だったこと：

- ・ 言い方がダイレクトで強くてこわい。
- ・ 伝わらない。
- ・ 特にない（7名）。
- ・ ランチのヌードル。

・シャワーの時間が短い。

8. 今後の英語の勉強について（複数回答可）

- A：もっと英語を勉強したいという意欲がわいた（10名）
- B：英語に自信がついた（0名）
- C：コミュニケーション力に自信がついた（1名）
- D：また機会があったら海外に行きたい（12名）
- E：また機会があったらホームステイをしたい（7名）



9. 日本の文化について質問されましたか。

- A：はい→何を？・食べ物。
 - ・文化の違い。
 - ・写真を撮る時、なぜピースをするか。
 - ・ひな祭り（2名）。
 - ・食文化。
 - ・食器の使用方法。

a：答えられましたか？（はい、多分。）

B：いいえ（6名）

10. 研修に行く前と後で自分自身が変わったと思いますか。

- A：はい→どういう点？・自ら進んで英語を話したいと思うようになった。
 - ・上手く話せなくてもいいから話そうとする自分の姿勢。
 - ・小さいことは気にしない。
 - ・人とコミュニケーションを取る時。
 - ・ほとんど自分一人だったので、いろんな事に対して自信がついた点。
 - ・強くなった（意思も体も）。
 - ・視野が広がった。
 - ・積極的になった。
 - ・考え方。
 - ・自分から少し人と会話できるようになった。いいと思う。
 - ・積極的に行動するようになった。
 - ・色々なことに挑戦していかなければいけないと思うようになった。

B：いいえ（1名）

11. 外国あるいは外国人に対して考え方が変わりましたか。

- A：はい→どういう点？・フレンドリー。
 - ・めっちゃ親切。
 - ・外国の人と話しづらいと思っていたがそうでもなかった。
 - ・先入観の消滅。
 - ・思った以上にはっきりしていて、そういう文化が良いと

思っていたけれど、逆に周りを気にしなすぎて良くない部分も見えた。

B：いいえ（6名）

12. 日本の文化との違いについて何を感じましたか。（自由記述）

- ・生活リズムが全然違い、ゆっくりとした時間でおおらかな人が多かった。
- ・人々が穏やかで生活リズムがゆっくりしているのに時間を有効に使っていた。
- ・バスの運転手さんがやさしい。
- ・ごはんはナイフとフォーク。箸の方が食べやすい。
- ・次の日のお昼ご飯を前の日にすべて作って冷蔵庫に入れておくことに驚いた。
- ・誰とでも楽しそうに会話する。
- ・食後のアイスがおいしかった。
- ・アグレッシブ。
- ・毎日寝る時間がとても早い。
- ・とても自由ですばらしい！
- ・日本は日本のいいところがあるけど固定観念が強すぎる。
- ・オーストラリアに行っても、実際ホストファミリーのお母さんは中国人だったし、それぞれ、その国の食文化や習慣など、やっぱり違うなあと思った。
- ・日本よりごはんが多めだったと思う。お腹がいっぱいかどうかいつも気にしてくれた。
- ・ニュージーランドの人は規則正しい生活をするのが普通なのだと思う。
- ・日本では夜遅く寝て朝も遅くまで寝ているというのが休みの日の過ごし方だったが、平日も休みの日も関係なく早寝早起きをホストファミリーの人がしていたので自分もそうするようになった。
- ・自由だな。
- ・意思表示の違いが一番大きかった。
- ・普段は大らかで楽しい分、適当な部分もあった。
- ・家の面積。
- ・食物の自給力。
- ・NZでは時間の使い方が日本とは違うと感じた。例えば学校は月～木はPM3:00に、金はお昼に終わるのに、授業内容はしっかりしていた。学校が終わった後は自分の時間がたっぷりあり、夜も10時には就寝し7時に起きるのでとても健康的でゆったりした時間を過ごしていた。



V：アンケート分析

このアンケートは研修前の回答人数18名、研修後の回答人数13名で前回より増えてはいるものの母数が依然として少数ではあるが、前回同様、彼らが「何を学んだか。そして、何を学ばなかったか。」という点に照準を絞って分析する。

最初に今回初めて実施した研修前アンケートと研修後のアンケートを比較可能な箇所は比較しながら検討する。

1. 「この研修に何を期待するか」/「期待したか」という問いに対して(回答者18名/13名)、「会話力の向上」(16名/9名)「英語力全般の向上」(9名/9名)「コミュニケーション能力の向上」(13名/7名)「異文化理解を深める」(12名/9名)「友達を作る」(6名/5名)で、ほぼ整合性も見られるし妥当な回答であると考え。
2. 「英語力全般においてどのような点の向上を期待するか」/「どのような向上が見られたか」に対して、「文法力」(0名/2名)「語彙力」(2名/1名)「会話力」(17名/5名)「リスニング力」(12名/7名)「コミュニケーション力」(12名/6名)という結果から考察するに、英語力があまり向上したとは思っていない学生が多いのではないかと。即ち、ほぼ全員が会話力の向上を期待しているのに向上が見られたと答えたのは13名中5名の約3分の1、リスニング力とコミュニケーション力は3分の2が期待したのに向上したと感じたのは約半分であった。
このことは今後の英語の勉強について研修後のアンケートで質問しているが、「英語に自信がついた」(0名)「コミュニケーション力に自信がついた」(1名)に対し、「もっと英語を勉強したいという意欲がわいた」(10名)「また機会があったら海外に行きたい」(12名)「また機会があったらホームステイをしたい」(7名)という正直な回答に表れている。
3. 「研修に際して不安に思っていること」に関しては、「英語の授業」(11名)「ホストファミリーとの生活」(2名)「文化の違い」(5名)「友人関係」(現地での友人関係も含む)(4名)であった。複数回答可で18名中英語の授業に11名しか不安を感じていないというのは物事に臆することなく向かっていく昨今の学生の性向と解釈すべきか。
4. 「研修に当たっての準備」として「文法」(1名)「語彙」(3名)「リスニング」(5名)など「英語の勉強」(5名)と「日本の文化の勉強」(1名)「相手の文化の勉強」(5名)いた。その他3名は『多忙。試験準備で忙しかった。何となく。』などの理由を挙げて何もなかった。
5. 「研修に参加する決意あるいは抱負」に関しては、本人の自覚を促すことが主目的であったが、回答は予想通り、『英語力の向上、会話力、リスニング力、コミュニケーション力』、などを伸ばしたいという声と同時に、『文化の違いを知る』、『異文化の理解』、『楽しんできたい!』という本音まで。
6. 研修後のアンケートの中で、授業でどのような点、あるいは何が一番難しかったかの問いに対して、「聞き取り」(1名)「語彙」(3名)「答え方」(5名)「文法」(4名)「その他」(2名)との回答である。ここで夏の研修では9名中「文法」と答えた学生が4人、今回は13名中4名いたことは、前回は書いたが、ある意味で特筆すべきことである。なぜならば、恐らく、海外英語研修で「文法」を期待する学生はほとんどいないのが普通であり、文法ができなくてもコミュニケーションが可能と考えている節が見られる。しかしながら実態は、文法が弱いと授業が難しく感じられるという現実がある。最近の中学からの学校英語の現場での、コミュニケーションが重視されるが故

に文法が軽視されている実情の反映とも思われる。しかし、個々がコミュニケーションでの表現力を高めるには、ある程度の文法分析力と文章構成力も重要である。

7. 今後の英語の勉強（学習）について、ほとんどの学生が「もっと英語を勉強したいという意欲がわいた」（10名）としたのは、正にこの研修の目的に合致するものである。4週間で英語力その他の能力が飛躍的に付くものではないわけで、何よりも今後の勉強のきっかけ、即ちモチベーション向上が研修の大きな目的の一つであることは言うまでもない。更に、「また機会があったら海外に行きたい」（12名）とほとんどの学生が考えていて、自由記述でも述べられているように、コミュニケーションの楽しさ、知らない世界を知る楽しさを知ったからであろう。「また機会があったらホームステイをしたい」と7名の学生が答えているのも、同じ理由であると思われる。
8. しかしながら「研修期間中の予習・復習」に関しては、平日が1時間以内（3名）、1～2時間（9名）、2～3時間（1名）で、週末は1時間以内（6名）1～2時間（5名）2～3時間（1名）というのは、特に宿題もない状況では仕方のないことかも知れないが、知識の定着という観点から予習・復習の重要性を知らしめ奨励すべきである。
9. 自由記述に関して：
「研修に行く前と後で自分自身が変わったと思いますか。」という問いに対して、『自ら進んで英語を話したいと思うようになった。』『上手く話せなくてもいいから話そうとする自分の姿勢。』『小さいことは気にしない。』『人とコミュニケーションを取る時、ほとんど自分一人だったので、いろんな事に対して自信がついた点。』『強くなった（意思も体も）。』『視野が広がった。』『積極的になった。』『考え方。』『自分から少し人と会話できるようになった。いいと思う。』『積極的に行動するようになった。』『色々なことに挑戦していかなければいけないと思うようになった。』と極めてポジティブな答えが並んだのは研修の企画実行する側の立場から拍手喝采したいほどである。「ホストファミリーとの生活の中で学んだこと」の中に、『人間単位では国を超えても、その人間性はさほど変わらない。』『異文化の生活のこと。』『現地の人の自然なふるまい。』『日本の文化が素晴らしいということ。』『人間性。』など、異文化コミュニケーションの点からも大いに学び、多くを吸収してきたことは素晴らしい成果である。また最後の「日本文化との違いについて何を感じたか」という質問に対しても、彼等の文化の違いに素直に驚き感動している様子が見受けられる。

Ⅵ：総括

1. 昨年の夏に引き続いての引率であったので、前回見つかった問題点の解決を探るべく大変有意義な出張であった。
2. まず第一に、前回、研修後のアンケートを作成し実施したが、今回は研修前にも、彼らが何に不安を持ち、何に期待しているか、などを問うアンケートを実施した。それによって何よりも彼ら自身の目的意識を明確にすることが出来る筈である。
3. もう一つは、前述したようにQIBAのディレクターであるHelmerさんに協力を依頼してテストを2度してもらって4週間の成果を見ること。勿論Helmerさんからの

メールにあるように、筆記テストでは測れない「目に見えない成果」、例えば英語を話すこと、あるいは外国人に向き合うことに対する自信、などはテスト結果には表れないが、少なくとも変化はある筈であるという点では賛同を得られ、快く承諾してくれた。

4. 依頼する時に、去年の研修後のアンケートとその集計したものを英訳して添付したら大変喜ばれ、当方の意図もよく理解してもらえた。
5. その結果は当の Helmer さんも驚くほど数字にはっきりと表れた。5 名中最も成績の悪かった学生 A は当初 Total score 31% であったのが 4 週間後 47% にアップ。44.2% 取った B は 61.4% に。また C は文法が 50% から 71.4% に。D はリスニングが 16% から 75% に何と 59 ポイントもアップしている。しかしながら Helmer さんが一番驚いているのは、ライティングである。ほとんどの学生が、最終的に書いた文字数は倍増し文章そのものも長くなっていて、数字の上では 40% から 60% にアップしたことに対し、QIBA のプログラムではライティングの技術向上は全く強調していないのにこれだけの向上が見られたのは、学生達が間違いに対する恐れが明らかに軽減し自信を持って自分の文章が書けたのであろうと分析している。(この彼女達のオリジナルの答案のコピーを送ってもらえないかと頼んだが丁重に断られた。)
6. 前回の夏の研修との更なる違いは、当方の要望で丸 1 日をかけて「Byron Bay へ行くこと」をプログラムから外したことである。

その意義に関して前回ディレクターの Helmer さんに質問状を出し、『当プログラムは“英語と文化を統合した教育的プログラム”であり、“オーストラリア最東端の Byron Bay へ行くことと、先住民アボリジニの文化の体験を含む Currumbin Natural Sanctuary 訪問とは、オーストラリア社会の研究に厚みとその背景への理解を付与する”ものである。』との回答を得ていたが、担当者である筆者が納得出来ず、「Currumbin Natural Sanctuary 訪問」のみに変更した。

7. しかしながら前回の研究ノートで書いた筆者の見解『そうであるならば、本学として、そのための事前準備が必要であると考え。即ち、参加する学生達に、上記のような目的と教育的観点を明確にして知らしめること。パンフレットあるいはインターネット情報を与えるか、彼ら自身で調べさせて予備知識を与えること、が非常に重要となってくる。そうすることによって初めて、Currumbin Wildlife Sanctuary へ行った意味を発見できるのである。』ということに関して“参加する学生達に、上記のような目的と教育的観点を明確にして知らしめること”が十分には出来ず、インターネットで得られた簡単な情報を与えたに留まったことは大いなる反省点である。
8. 上記に関連して研修前オリエンテーションの在り方も今後改善するべきであると考え

る。即ち、現行では旅行者が出向いて来て「海外旅行の注意事項」、国際交流課の担当者による〈ホームステイについて〉、保険会社による〈危機管理について〉、直前に行われる最終オリエンテーションでは〈ビザなど必要書類の引渡しと出発当日の集合場所その他の確認など〉に留まっていた。

英語研修に行くのだからもっと英語のオリエンテーションをするべきではないのか。そこで昨年夏の研修前には15分程時間をもらって必要最小限の英語表現と異文化コミュニケーションの話をした。今回は、短期大学部1年後期にある小山の授業〔トラベル英語〕を基にした内容と自己紹介を書くテストを行った。（ニュージーランド行き16名とオーストラリア行き6名との合同である。）自覚を持ってもらいたかったからである。

9. テストの結果は100点満点で、平均22.4点、最高64点（これは飛び抜けて良い点数で次点は50点、それ以下は20点台が大半を占めた）、最低3点、という惨憺たる有様であったにもかかわらず学生達には一向に危機感がないように思われた。
10. 研修後はレポート提出で終わりであったのを今回は新学期の初日の5時限目に懇親会と称して全員に出席を呼びかけたが実際出て来たのは延べ6名（2名は遅刻、1名は早退）だけであった。そのため本来意図していた〔トラベル英語〕の同じテスト実施で結果の違いを見るという目論見は外れ単なる親睦会になったが、出席した学生にとっては同窓会のような気分で懐かしそうに色々な話や“今だから話せる秘話”も飛び出したり、1時間半賑やかに話ができて、学生にとっても実施側にとっても非常に有意義なものとなった。
11. しかしながら問題点としては、強制ではないから仕方ないと言えばそれまでであるが、研修参加者22名中、出席者6名とは余りにも淋しい限りである。
学生の真の英語力向上に資するためには研修前の英語教育と研修後のフォローアップが必須であると考え。その両方を含めての海外英語研修であるという意識を持つべきである。

Ⅶ：問題提起と改善策

1. アンケート：

前回からの懸案であった研修前アンケートは前述のように作成実施され、研修後も昨年と同じものを実施した。残念ながら何度も呼びかけたにもかかわらず全員のアンケートが回収されなかった点は今後の課題である。

研修前にもこのようなアンケートで問いかけることによって、参加者の目的意識をはっきりさせることに寄与しているものと信じる。

2. 研修前教育：

『スタディ・アブロードの単位を与えるのであるから、そのための事前準備、教育が必要と考える。』と前回書いた。『即ち、ホームステイ先または他国の学生から質問されるであろう、あるいは、日本人として知っておくべき日本の文化をきちんと説明出来るように理解し、更に、それらを英語で暗記することなど。他には最低限のコミュニケーションのための表現法と文化の違いをレクチャーする。』しかしながらそれに対しては「日本文化」に関するパンフレットを配布したに留まっている。しかるべきルートを通じて研修前教育の必要性を理解してもらい実施することが学生達の英語研修を更に実りあるものにすることは疑いの余地のないことである。

3. 研修後教育（反省会）：

『帰国後に英語学習上の疑問点および今後の勉強の仕方などを教師の助言を受けながら学生全員で討議し、同時に、ホームステイ先や他国の学生から日本について實際何を聞かれたか、どういう点で困ったか、どう処すればよかったか等、異文化コミュニケーションの観点から議論して、学生自身の Global mind の育成に役立てる。』とやはり前回書いた。しかしながら前項、総括の10と11で述べたように、惨憺たる有様であった。帰国後、全員で集まるということ自体初めての試みであったようだが、今回のように懇親会ではなく反省会、または報告会として関係各位の出席の下、全員出席を義務付ける方向で働きかけていくこととする。そうでないと、本当の意味での研修の成果は定着しないのではないかと危惧するものである。

4. 学習目標：

『学生が身に着けるべき学習目標を明確にすること。即ち、この研修において何を学ぶべきか、何を学びたいか、を項目で挙げることで、学生が漫然と授業を受けたり、ホストファミリーと過ごしたりすることなく、具体的で明確な目的意識を持つことによつての研修効果は飛躍的に増大するものと信じる。』これは、アンケートの問いという形で目的意識を持つように誘導したつもりであるが、別の形で明確にするべきであると考ええる。

5. Student portfolio^{注1}：

『Teaching から Learning へのパラダイムシフトが叫ばれている昨今、具体的には、Student portfolio を作成し、その中には前項で掲げた学習目標があり、学生が何を学びたいか、何を学ぶべきか、を学生自身が自覚できるようにし、そうして何を学んだか、何を学ばなかったかを明確にする仕組みを作ること。』これが作成されれば、前項の学習目標の問題も解決されるので、是非とも実現したい今後の課題である。

VIII：おわりに

アンケートの分析と問題提起ならびに改善策を述べてきたが、提出されたレポートを読んでも総体的に学生の満足度は非常に高く、本研修そのものの目的は一応果たされたと見てよいであろう。

しかしながら、前回も書いたように、この海外英語研修が、本学の英語教育上に更なる貢献を果たす可能性を考えた時、Student-oriented なプログラムの中で、本学の“理念を表すキーワード”である“Global mind”の育成と学生自身の英語力向上、および、国際交流に資するために、前項で述べたような改善策、即ち、Student portfolio の作成、学習目標の明確化、研修前と研修後の教育、更には1年後、2年後の追跡調査とフォローアップが必須である。

今回は、前回提案した改善策の中から、研修前のアンケートも実施できたが、本当の意味での事前研修と事後研修を実施すべきと考える。そうしてその中でテストを実施し具体的な数値で自己の英語力の向上と進歩を本人が実感できる仕組みを構築するべきである。

そうすることによって、本件のような海外英語研修が、本学の学生に対して、真の意味

での Global mind を持ち国際的に活躍できる人材育成に果たす役割は甚大である。

注1 : Student portfolio : Personal information file containing records of courses taken, examination results, reports, theses, and other learning content, and evaluations.

「自己学習点検簿」とも言うべきものである。

ABET (Accreditation Board for Engineering and Technology) の “Student Portfolio Evaluation” の material より以下抜粋 :

The student portfolio represents a longitudinal study of a student's work over his/her entire career. These will be used to measure student quality and hence they are an output measure. They should be reviewed yearly for each student in the evaluation set. It is important to give feedback to the students concerning the evaluation. It is important to give feed back to instructors concerning strengths and weaknesses of the students in a general sense (for example, if all of the students are weak in applying probability concepts, then this must be told to the instructor of the course where the material was covered) so that we can tie this output measure to process improvement.

参考 : QIBA で使用しているテキスト :

“New Cutting Edge”, Sarah Cunningham, Peter Moor, Longman, 2007
Elementary/ Pre-Intermediate/ Intermediate

